

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

世界に希望を生み出そう



寛容の心で、
ロータリーを楽しもう

RI会長 ゴードンR・マッキンリー 2023～2024

富津中央RC会長 若鍋武良

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2749 第28回例会 2024. 2. 15 晴

点 鐘 : 若鍋武良 会長
進 行 : 渡辺哲夫 SAA 飯島由美 副SAA
ソング : 我らの生業

会長挨拶

若鍋武良 会長



皆さん今日は。現在のRI(世界ロータリー)を創設したポール・ハリスについての話です。

ロータリークラブの創設者ポール・ハリス(1868～1947年)の生涯。

ポール・ハリスは、1868年4月19日に米国ウイシコンシン州で生まれた。両親が離婚した為、3歳の時にバーモント州に移り、父方の祖父母に育てられました。子供時代を祖父母の地で過ごし経験から「人生は持ち物で計られるものではなく、人の内側にあるもので決まり、寛容と友情が中心的価値であること」をここで受けた教育で身に着けました。

バーモント大学とプリンストン大学で学び、1891年アイオワ大学で法学の学位を取得しました。ポール

は、大学卒業後、5年間様々な職業を体験、大都会で出来る仕事は何でも挑戦した。5年間の放浪生活の後、28歳でシカゴで法律事務所を開設。数年後には仕事は、順調に成功していました。が、個人的な友人を見つけられず、異業種でも1つになれる憩いの場を求めている。

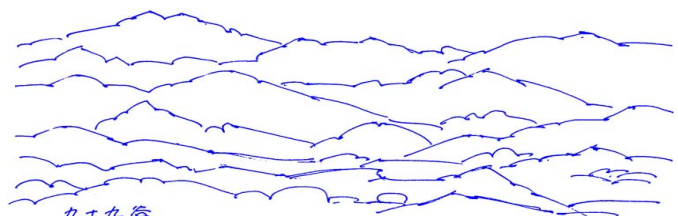
1905年2月23日、ポール・ハリスと彼の友人3名が「打ち解けた親睦と相互協力」を目指したクラブの結成を誓い、現在のロータリークラブを結成しました。1907年ハリスはシカゴロータリークラブの3代目会長に就任、1910年、米国の他の主要都市にもクラブを結成することに成功。1910年8月、シカゴで初のロータリー全米大会が開催され、全米ロータリークラブ連合会(現在のRI「国際ロータリー」の前身)を結成、全会一致でハリスを会長に選出しました。会長退任後亡くなるまで名誉会長であり続けました。

1947年1月27日78歳で永眠。亡くなる前ハリスは、葬儀に花を贈る代わりにロータリー財団に寄付して欲しいと言い残した。訃報を受け、ロータリーは、ハリスの遺志を反映したポール・ハリス基金を設立。逝去から18ヶ月間にロータリー財団に130億ドルの寄付が寄せられた。

ポール・ハリス語録

・私たちのロータリーが、単に一過性のものでないとしたら(継続性をもつとしたら)、それはあなたや私
が、互いの弱点を忍ぶ、つまり寛容の価値を知った

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館
Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,
293-0043
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



からでしょう。(ナショナル・ロータリアン、1911年1月号)

・友情は、ロータリーを築く岩のような堅固な土台であり、寛容の精神は、ロータリーを結びつけるものです。もしこの寛容の精神がなければ、各ロータリークラブのあふれんばかりのエネルギーでロータリークラブはこなごなになってしまうでしょう。(雑誌My Road to Rotary)

幹事報告

岡元 誠 幹事



1. 第5グループ通信V o 1. 3を回覧。
2. R L I パートIIのご案内を回覧。
3. ハイライトよねやま287号を回覧。

会員卓話

『てっちゃんの鉄道一人旅』 <パート2>

渡辺哲夫 会員



前回の卓話は「大人の休日倶楽部」の会員となって、観光地を巡り温泉を楽しんで来たことをお話ししましたが、2023年の“てつ旅旅行記”のテーマは「日本秘湯を守る会」の会員となり自由気ままなひとり旅を実践して来ました。

好きな時に掛けてのんびり温泉に浸かり、自分

のペースで食事をして、寝たいときに寝る。温泉宿に着いたら浴衣に着替えてのんびりと過ごす。そして地元料理を味わう。更にはスタンプ帳に「日本秘湯を守る会」の宿のスタンプ10個押印した中から好きな宿に1泊無料ご招待ということで、今年の“てつ旅”は「日本の秘湯を巡る旅」と致しました。

まず始めに1月。一人旅のスタートは本州の最北端、厳寒の下北半島青森県下風呂温泉郷「下風呂観光ホテル・漁火の宿 三浦屋」に宿泊。下風呂の良質な硫黄泉を堪能できる宿。露天風呂や部屋から新鮮な海の幸を津軽海峡に瞬く漁火を眺め、夕食では新鮮な海の幸を堪能した。

2日目は大湊線、青い森鉄道と乗り換え、八戸駅からは東北新幹線に乗り、岩手県の古川駅で下車、陸羽東線(奥の細道湯けむりライン)に乗り換えて鳴子温泉郷の秘湯温泉「百年ゆ宿 旅館大沼」に宿泊。この宿は、最近一人旅用に一部の客室をリフォームしたばかりで、素朴ながらも快適に過ごせる温泉三昧の宿でした。(写真)なかでも離れの庭園貸切り風呂「母里の湯」は雪見の露天風呂で1時間ののんびりと旅の疲れを癒すことが出来ました。

次に2月。秋田県の日本海に突き出た男鹿半島の景勝地でなまはげに対面。海沿いに湧く開放感ある温泉の男鹿温泉郷で、男鹿駅から路線バスで45分。バス停を降りると目の前が秘湯温泉「元湯雄山閣」である。宿の入り口には大きななまはげの立像が待っている。

自家源泉から贅沢に注ぐ湯の花豊富な極上の湯で、体の芯まで温まる。大浴場には、口から音を立てて湯を噴き出すなまはげに目が行くが、この湯は敷内の源泉からポンプで直接湯ぶねに噴き流しているのだとか。木造りの建物で囲われた半露天風呂の岩風呂も風情があり、どちらの湯ぶねにも湯の花が層になっている。

次に3月。一度は行ってみたかった青森県の津軽西海岸の温泉「黄金崎不老不死温泉」は、秘湯の名物風呂(秘湯温泉ではありません。)荒々しい日本海に沈む夕日が空と海を黄金色に染める波打ち際の露天風呂。源泉は、鉄分を多く含む赤褐色の湯で、ひょうたん型の露天風呂は日本海の絶景を

見晴らす「海辺の露天風呂が注目され、「温泉好きなら一度は行ってみたい宿」といわれるようになった。海と一体化できる唯一無二の絶景露天風呂。日本海に面した露天風呂が有名な宿。水平線と一体になった感覚を味わえる波打ち際の温泉を1泊1万円台で宿泊できるとあって、秘湯ながらも多くの人が訪れる。中でも夕暮れ時はまさに絶景。食事は海の幸をふんだんに使用した網元ならではの郷土料理が味わえる。

次に4月。秘湯温泉に行く前に谷川岳ロープウェイに乗って頂上まで行き、雄大な風景が堪能し谷川岳天神平ハイキングを楽しもうと計画。本来はJR上越線水上駅が玄関口ですが、一つ先のJR土合駅で下車。土合駅は鉄道ファンならご承知の日本一のモグラ駅として有名。下り線のホームが地下約70メートルにあり、486段の階段を上がらなければ地上に出ることは出来ない。ここでハプニング、私は地上に出るまでに40分掛かってしまい、谷川岳ロープウェイ駅に着いたのですが頂上までの往復の時間を考えると帰りの電車に間に合わない為、頂上への往復を諦めて残念ながら水上駅に戻ることにした。今夜の宿は以前来たことのある八ッ場ダムの玄関口JR吾妻線川原湯温泉駅で下車し、山あいの秘湯温泉「川中温泉・かど半旅館」です。旅館までは事前に連絡してありましたので旅館の主人が迎えに来てくれていましたので、約15分で旅館に着いた。宿は全部で10室のこぢんまりとした温泉旅館で、古い木造の2階建ての温泉宿。

料理も山菜料理中心の家庭料理で、都会人にはことのほか喜ばれているようです。特に主人が作る「おつきりこみ」は、まさにふる里、上州のおふくろの味を受け継いだものであるとか。本日の宿泊客は私を含め2組でした。温泉は前の溪流、雁ヶ沢の底から湧いている。溪流沿いの露天風呂(写真)からの緑と水音の自然美はたまらない。少しぬるめのお湯で肌をこするとスベスベして気持ちがいよと思ったら「日本三大美人の湯」の一つだとか。低温長時間療法が提唱されており、草津温泉の上がり湯として利用したいそうです。

次に5月。訪れたのは2度目となる乳頭温泉郷。

今回は秘湯温泉「鶴の湯別館 山の宿」。それぞれ個性豊かで乳白色の癒しの湯、鶴の湯温泉の本館から引湯する白濁した美人の湯は温泉かけ流しで、貸切りの露天風呂と内湯で一人占めできる。囲炉裏を囲んで味わう郷土料理はほっとする味わいでしたが一人では寂しい思いも感じた。前回、乳頭温泉郷7湯の内5湯を制覇しましたが、今回は残りの2湯に入浴すべく訪れましたが、前回来た時も大雨、今回も1日目は大雨に見舞われ最初の「黒湯温泉」まではバス停から雨の中を歩くこと30分、まずは到着して昼食を、その後に黒湯温泉名物の露天風呂に入る。雨天にもかかわらず入浴客は多く、その殆どはマイカー客の日帰り入浴客。黒湯温泉の後は、今夜宿泊する「鶴の湯温泉別館 山の宿」に向かうこととした。これで乳頭温泉郷「鶴の湯別館山の宿」を加え7湯制覇した。

次に6月。JR盛岡駅からレンタカーを借りて東北自動車道松尾・八幡平ICで高速を降り、八幡平アスピーチラインで一路、八幡平頂上と蒸ノ湯温泉「源泉・秘湯の宿 ふけの湯」に向かった。

途中、八幡平山頂レストハウスに立ち寄り、昼食を食べ車を駐車場に置き雄大な八幡平山頂ハイキングを楽しもうかと思いましたが、駐車場が満車の為断念予定していたお昼にもありつけない始末。八幡平山頂ハイキングとお昼を諦めて一路、宿泊予定の宿蒸ノ湯温泉「源泉・秘湯の宿 ふけの湯」へ直行。旅館でお昼を食べることとした。

宿に着いたのが午後1時過ぎ、チェックイン時間前でしたが部屋に案内してもらい、食事処でお昼を食べ部屋で一休みをしてから名物の野天風呂に向かった。ここ蒸ノ湯温泉「源泉・秘湯の宿 ふけの湯」は、標高1100メートルにあり、八幡平最古の歴史を誇る秘湯の一軒宿。かつて地熱を利用した「蒸しの湯」として、湯治で賑わったことから名付けられた。敷地内に数種類の温泉が湧き、湯は「子宝の湯」と呼ばれている。館内には「ふけの湯神社・道祖神」が祀られていた。宿泊客は3組と少なくお陰で露天風呂等には思う存分温泉を独り占めして楽しむことが出来た。料理は地元の山菜料理が主でしたが美味しく頂けた。2日目は、宿を早めにチェックアウト

し、昨日行けなかった八幡平山頂ハイキングに挑戦。八幡平山頂無料駐車場に車を止め、車を降りて雄大な自然の中を散策。途中、八幡平にある神秘的な絶景スポット、雪が溶け始め例年5月中旬から6月中旬くらいに見られる光景「八幡平ドラゴンアイ」を見学して、早々に昨日のルート八幡平アスピーチラインと高速道路で盛岡駅に帰りました。

次は6月下旬、北海道の十勝岳温泉。「大人の休日倶楽部パス」を利用して初夏の北海道の雄大な十勝岳連峰と秘湯温泉「十勝岳 凌雲閣」に絶景と癒しを求めて旅行した。宿に向かう途中で旭川駅から富良野線に乗り換え、美瑛駅に立ち寄りテレビコマーシャル等によく見かける色とりどりの花畑や「ケンとメリーの木」を見学、「ぜるぶの丘」で昼食と花畑の見学をした。そして再び富良野線美瑛駅に戻り上富良野駅からバスで約45分、バスの時間の都合で午後13時30分に秘湯温泉「凌雲閣」に着いた。「凌雲閣」は標高1280mに位置し、北海道で最も高地にある温泉宿。360度絶景のパノラマに囲まれた旅館の窓からは鉾山特有の美と迫力のある北海道の大自然を感じることが出来た。宿は昭和38年に開業し、「雲を凌ぐ宿」凌雲閣と名付けたそうですが、十勝岳連峰の雄大なパノラマを眺めながらゆったりと雲の上の露天風呂を楽しむことが出来、温泉は山の頂近くから引かれた、鉄分を多く含む茶褐色の湯と賛成の湯の2種類の源泉100%かけ流し、露天風呂から望む景色は圧巻。ここでしか見られない雄大な十勝岳の絶景が堪能できました。

7月・8月はお休みをして次に行ったのは、紅葉の始まった9月。宇奈月温泉駅から山岳鉄道で行く絶景の黒部溪谷。見どころ満載の秘境へは樺平駅からトロッコ電車の旅、終点の樺平駅から更に歩くこと20分。目指す秘湯温泉は、標高1906mの名剣山南麓に立つ秘湯温泉「名剣温泉」。

樺平駅からは黒部川本流に架かる奥鐘橋を渡り、岩盤を削って造った林道を歩いた先、祖母谷の崖の上に立つ一軒家だ。客室の窓からのぞけば、黒部川は深い谷底にある。風呂は自然の巨岩を取り込んだ男女別の内湯と、ランプの明かりが灯る野趣豊かな男女別露天風呂。そして宿泊客専用の貸切

り半露天風呂もある。いずれも溪谷を望む絶景風呂で、すぐ近くで落ちる滝が絶好のBGMになっている。

料理の評判も高く、山の旬を感じる新鮮な食材は、館主が黒部市内の実家に戻って調達し、日々、運び上げて来るとか。例年の営業は11月中旬までで、翌年の5月下旬まで冬季休業となります。この日の宿泊客は、女性3人組と2人組、そして、私を含め一人客は男性3人女性1人の計9名でした。紅葉の時期に再度来てみたいと思う絶景の秘湯温泉でした。

次は10月。今度は関西方面に足を延ばし、紀伊半島の太平洋の絶景と和歌山県の世界遺産の聖地の熊野に行ってきた。まずは秘湯温泉を目指し、JR新大阪駅から紀勢本線(きのくに線)に乗り継ぎ紀伊田辺駅で下車、路線バスに揺られること1時間20分、東京駅から約7時間を駆け最初の目的地、秘湯の温泉紀州徳川家の御殿湯「龍神温泉下御殿」に到着。

龍神の湯は、以前宿泊した群馬県山中温泉の「かど半旅館」と並び日本三美人の湯の一つと言われている。なるほど2、3回湯につかると肌がすべすべしてきた。この温泉は紀州藩主徳川頼信公が藩費で下御殿、上御殿を建て、当主は27代目の湯守りだそうだ。有吉佐和子もこの湯にひたりながら、「日高川」に登場する龍神に育った千世子の白い肌を連想したのだとか。浴室の窓の下には日高川の溪流が美しく流れている。そして今回の旅の目的でもある、熊野三山の「熊野那智大社」と「熊野速玉大社」に参拝。駅観光案内所の熊野古道ウォークのモデルコースを参考に紀伊勝浦駅から路線バスで、「大門坂～熊野那智大社・那智の滝の3時間コース」と、新宮駅から「徒歩で「速玉大社～神倉神社」の昼食を含み2時間コースで三社詣でをして来た。

那智大社では「那智の大滝」。速玉大社では「八咫鳥神社」と「神倉神社」と神社詣でをして参りましたが、特に熊野那智大社に行くのに熊野古道の一つ「大門坂」を登ってきたがジムに通っていたおかげで足腰は大丈夫。那智の大滝も石段がきつく、

最後の神倉神社への参道も急坂な石段で足場も悪く特に疲れた。

以上が2023年の9カ所の秘湯温泉一人旅ですが、本来なら年昨中に10カ所の秘湯温泉を目指す予定でしたが9回で終わり、今年の2月の旅行で10回目となる秘湯温泉巡り。2023年も引続き一人旅を楽しんで来ようかと考えています。年頭所感でも申しましたがそれには健康が第一ですね。ご清聴ありがとうございました。

『ファッション業界について～仕事成長記～』

久保顕彦 会員



本日は40年前に新卒としてファッション業界に入った私の当時のエピソードや仕事を通して得た力、知り得た専門知識等のお話をいたします。

何の志もなく日々をボーッと過ごし、気付いたら大学4年生になっていた私は、従兄弟が総務部長を務めるJUNというファッション企業に入社させていただきました。当時のJUNはメンズ&レディースブランドが10強あり、加えてゴルフ場、ワイン工場、飲食店、ヘアサロン、ディスコ等を多角的に経営している企業でした。何よりファッションフォトグラファーのレジェンド、リチャード・アヴェドンが当時のスーパーモデルを使ったJUNの斬新なCMをテレビや映画館で観て、その非日常的なエレガントな世界に魅せられた私はワクワクドキドキしながら社会人生活をスタートしました。

運良く第一希望のレディースブランド・J&Rの営業職に配属され、責任者が朝月会員でした。以来40年にわたって薫陶を授かっておりますが、職場は朝月会員の『ビジョン』が隅々まで色濃く反映されており、売上に対する高い意識や挨拶の徹底な

どJUN随一の厳しい事業部でした。終業時間は18時30分となっておりますが、24時、

25時まで働くのは当たり前で、社会人一年目の私にとって夜遅くまで働くというのは「そういうもの」でもありましたが、中途採用の4名の先輩方は1年以内に全員退職し、真っ先に辞めるであろうと予測されていた私のみが残ってしまいました。

エレガントな職場を想像しておりましたが、根底にあるのは昭和根性論で現場は非常に泥臭く、毎日3時間は指導され、神妙な顔で説教を聞き流す技を覚えました。ただし瞬時に浮かんだもつもらしい言い訳を実践してみると売上が上がるという成功体験も多くあり、私にとって説教されることはインスピレーションが湧ききっかけとなるものでもありました。

当時ファッション関係者は洗練された暮らしの達人といわれおり、確かに(これは朝月会員の意向でもありましたが)就業時間内でも映画や美術鑑賞は許され、多くのグルメ体験を通して独自の感性を磨きました。またJ&Rは自社で衣類をデザイン・生産し、販売する「モノづくり」の企業であり、衣服を売るために様々な職種があり、多くの服飾副資材企業が関わっていることを知り、商品開発のための『こだわり』を学びました。

私見ですが、ファッション業界は学歴や学業成績の良し悪しではなく感性(センス)があればやっていける業界であり、「美的センス」「遊び心」は必須となりますが、働くうちにコミュニケーション能力や美意識を養え、ファッション・デザイン目線で物事を考えられるようになって感じました。

そんな私はファッション業界での経験や実績を買われ2011年、大学教員としてファッションビジネスを教えることになりました。学生には、趣味の映画鑑賞が仕事に大変役立った私の経験から、ファッション専門知識以外に映画作品&監督、俳優、エディター、フォトグラファー、アート、アート活動、歴史上のカリスマ、音楽家、建築家などの文化的な知識を身に付けていると、仕事上で強力な武器となることを伝え、もしファッション業界を希望するなら「自社で商品を作っているブランド」、可能であれば「より価格の高い商品を売っているブランド」を目指し、ど

のような趣味でも深め極めることをアドバイスしております。

委員会報告

岡田良弘 ゴルフ部担当委員



第18回富津中央RC杯争奪親睦ゴルフコンペ案内
(富津中央RC親睦コンペ&新入会員歓迎コンペ)

期日: 3月31日(日)8時15分集合(※荒天時中止)

場所: 南総ヒルズカントリークラブ

費用: 約17,000円(各自精算)

参加費: 1,000円(賞品代)当日集金

スタート: 中コース～西コース(1組目8時52分)

競技要領:

1. JGA及びローカルルールに従うこと。
2. 18ホールストロークプレー(新ペリア)
3. スルーザグリーン6インチプレース及びワングリップOKとする。
4. プレー終了後、レストランにて表彰式。

ニコニコBOX

岡田良弘 親睦担当部員

渡辺哲夫 卓話をさせて戴き。

久保顯彦 拙い卓話をご静聴戴きありがとうございました。

相川恵津子 渡辺会員と久保会員の卓話を聞かせて戴いて。

飯島由美 //

榎本守男 哲ちゃん、久保さん卓話ありがとうございました。

三幣政紀 誕生祝いをいただき。

高橋裕之 車が新しくなりました。

* >1,000円 計 8,000円

出席報告

栗原典子 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	36/31	29	5	2	86.11%
前回	36/31	29	5	2	86.11%
前々回	36/28	26	8	2	77.78%

出席率の計算式

$$\frac{\text{当日出席した会員数} + \text{Makeupした会員数}}{\text{全正会員数} - \text{当日欠席した免除適用会員数}}$$

理事会報告

若鍋武良 会長

議題1 富津市と嘉義市との友好を深める件。
渡辺務会員より提案、承認。

議題2 新入会員推薦について。
新橋悠実瑛様と伊藤嘉昭様。

議題3 地区補助金申請について。
「子供食堂」で申請する。詳細(名称・内容)については、担当する神子勝美会員と岡田良弘会員を中心に検討する。

